

■ 株式の状況 (2021年9月30日現在)

発行可能株式総数	250,000,000株
発行済株式の総数	129,066,837株
株主数	6,741名

大株主 (上位10名)

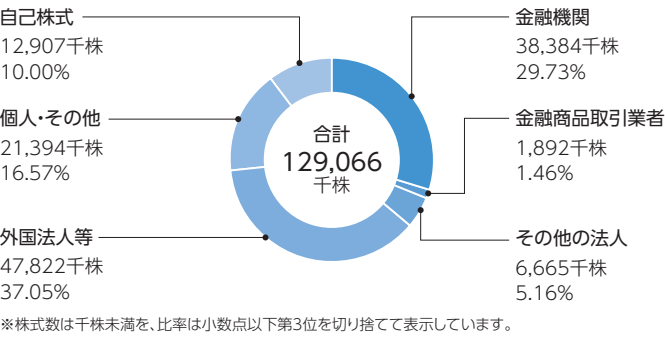
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	15,363	13.22
かみぐみ共栄会	7,081	6.09
(株)日本カストディ銀行(信託口)	5,967	5.13
上組社員持株会	3,239	2.78
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,856	2.45
全国共済農業協同組合連合会	2,772	2.38
(一財)村尾育英会	2,456	2.11
日本生命保険(相)	2,271	1.95
住友生命保険(相)	2,250	1.93
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	2,192	1.88

※1 自己株式12,907千株は、上記大株主から除いています。

※2 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

※3 持株比率は自己株式を控除して算出し、小数点以下第3位を切り捨てて表示しています。

■ 所有者別株式分布状況 (2021年9月30日現在)



■ 会社の概況 (2021年9月30日現在)

商号	株式会社 上組 (Kamigumi Co.,Ltd.)
創業	1867(慶応3)年(設立:1947年2月28日)
資本金	31,642,266,011円
従業員	3,806名(連結:4,352名)
本店	神戸市中央区浜辺通四丁目1番11号
主要な事業内容	物流事業 港湾運送事業、倉庫業、貨物自動車運送事業、倉庫工場荷役請負業、国際運送取扱業等 その他事業 重量貨物運搬据付業、不動産賃貸業、物品販売業、酒類製造販売業等

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 中間 9月30日 期末 3月31日
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 (お問い合わせ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料)0120-094-777
公告方法	電子公告 当社ホームページ(https://www.kamigumi.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 役員 (2021年9月30日現在)

取締役

代表取締役会長	久保 昌三
代表取締役社長	深井 義博
代表取締役専務	田原 典人
代表取締役常務	堀内 敏弘
代表取締役常務	村上 克己
取締役	平松 宏一
取締役	長田 行弘
取締役	椎野 和久
取締役(社外)	石橋 伸子
取締役(社外)	鈴木 三男

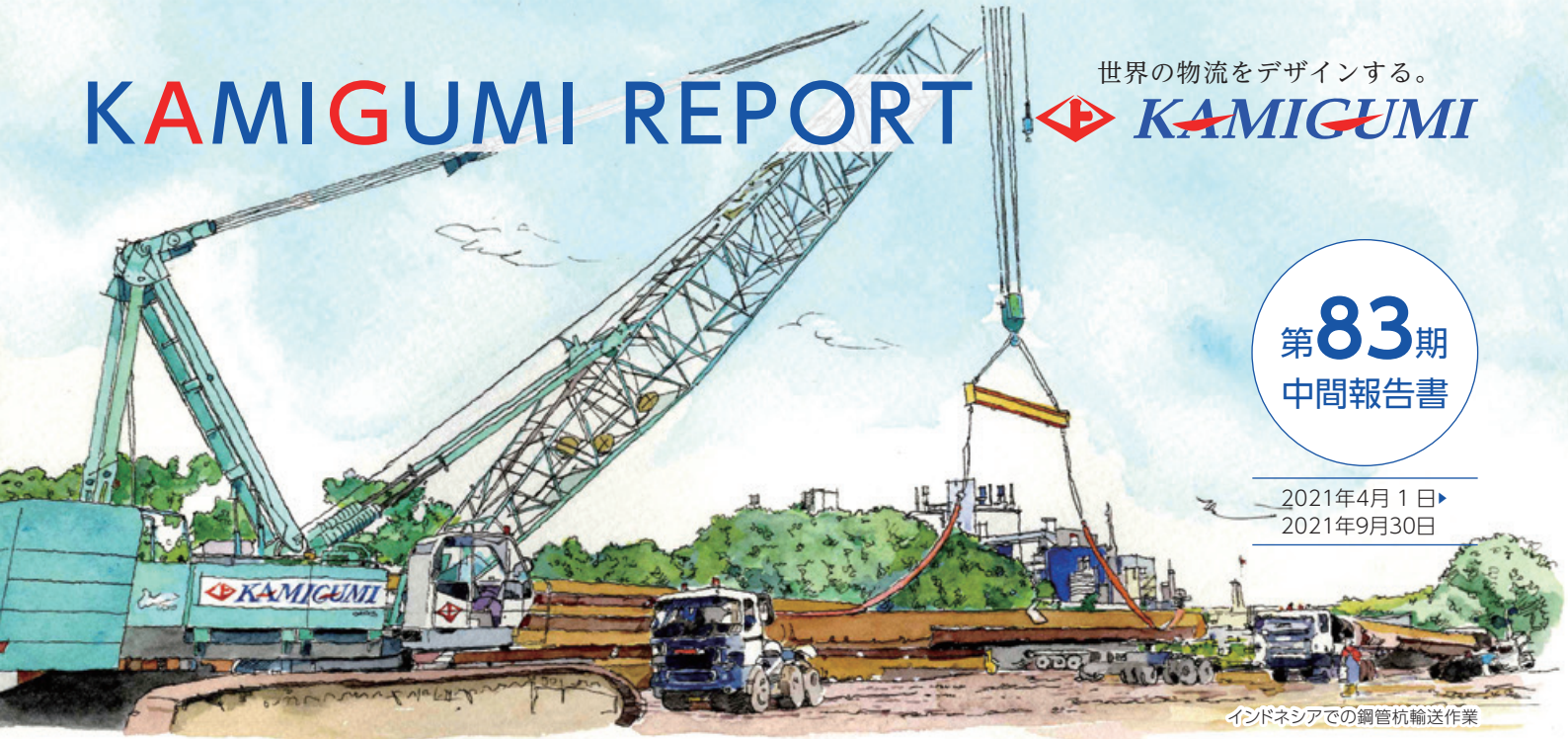
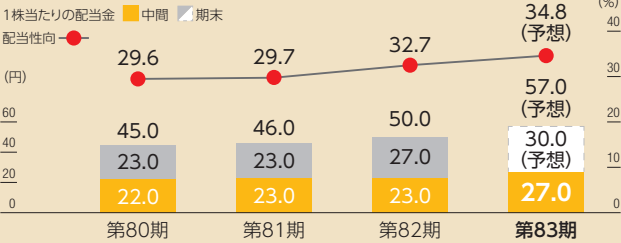
監査役

常任監査役(常勤)	小林 保男
監査役(社外)	宗吉 勝正
監査役(社外)	中尾 巧
監査役(社外)	黒田 愛

株主様への還元方針

当社は、業績推移や内部留保とのバランスなどに配慮しつつ、連結配当性向30%を目安に、業績に連動した株式配当を実施してまいります。また、自己株式の取得についても継続実施を基本方針とし、総還元の実効と資本効率の向上を目指して機動的に判断してまいります。なお、中期経営計画期間中は、さらなる還元強化に取り組み、第84期から第86期においては連結配当性向40%を目安に株式配当を実施いたします。

配当金と連結配当性向の推移



物流基盤の強化を図り、 顧客ニーズを取り込んだ物流サービスを推進します。

株主の皆様には、格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。さて、当社第83期第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)の事業の状況をご報告申し上げます。

物流業界は、国内貨物と輸出入貨物の取扱いはともに回復傾向ではあるものの、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響を受け、経営環境は厳しい状態が継続しています。

このような状況下で当社グループは、横浜市に穀物の取扱いを主とした倉庫を新たに建設するなど、物流基盤の強化を図り、顧客ニーズを取り込んだ物流サービスを推進してまいりました。

この結果、国内外の貨物取扱い数量の回復により、当第2四半期連結累計期間における営業収益、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益はともに前年同期を上回り、増収増益となりました。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

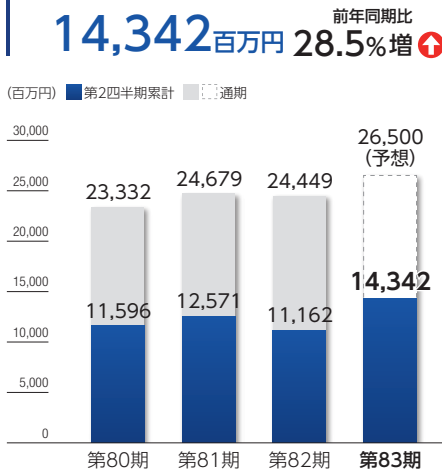
代表取締役社長

深井義博

営業収益



営業利益



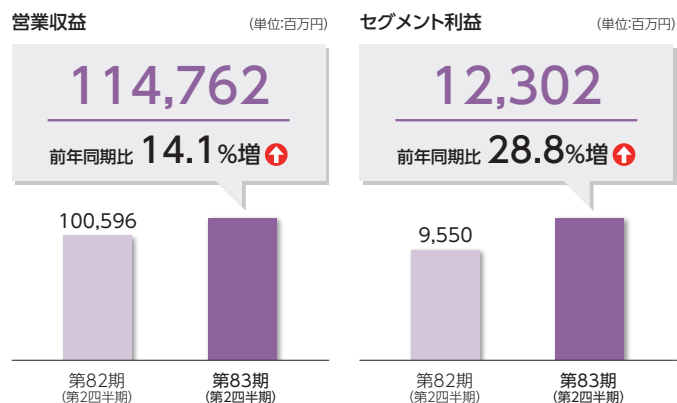
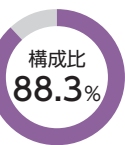
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



※第83期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第82期に係る各数値については当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっています。

物流事業

- コンテナや穀物、青果物、自動車および関連部品の取扱いが増加
- 工場荷役請負の取扱いが増加
- 海外プロジェクト貨物の取扱いが堅調に推移



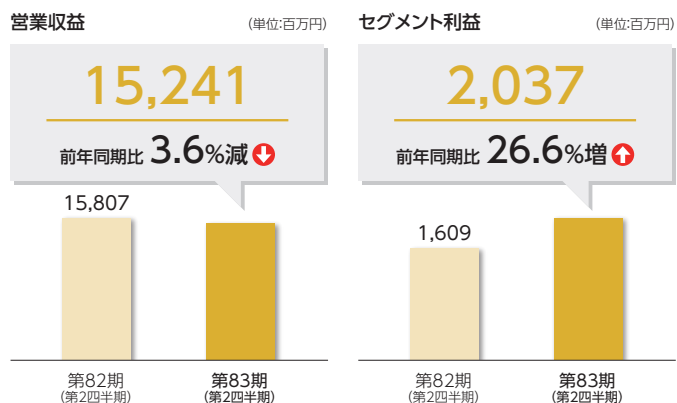
※上記の営業収益およびセグメント利益の数値は、セグメント間の取引消去前の数値を記載しています。

※第83期より「物流事業」と「その他事業」に報告セグメントを変更しており、第82期の各数値は変更後の報告セグメントに基づいて算出しています。

※第83期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第82期に係る各数値については当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっています。

その他事業

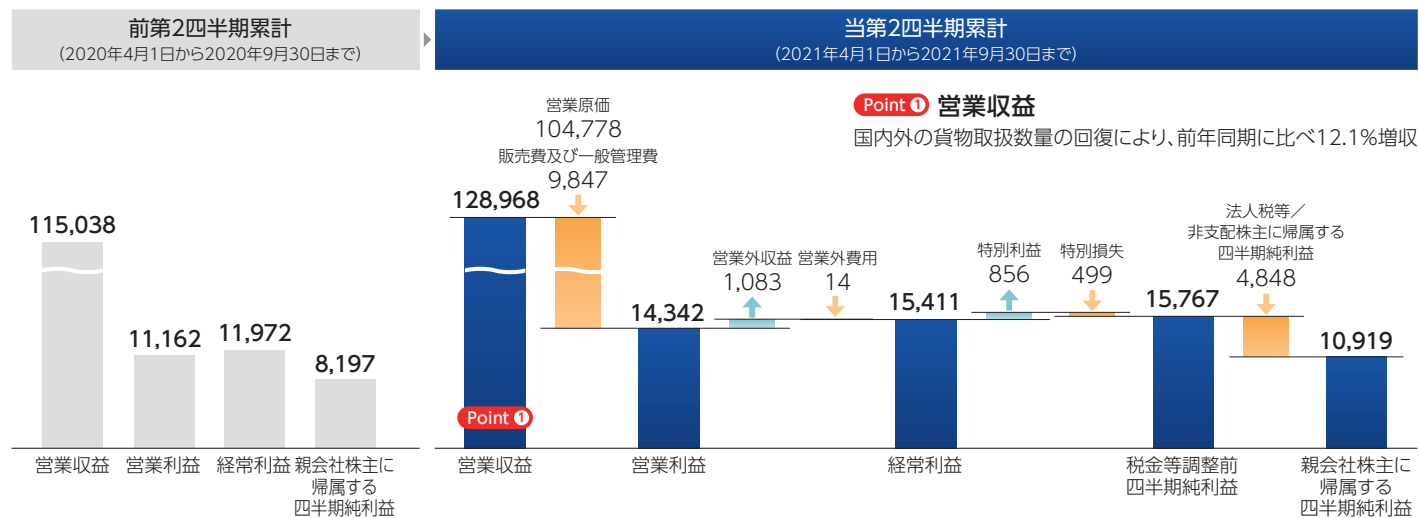
- エネルギー関連貨物の取扱いが増加
- 重量貨物や建設機工案件の取扱いが減少



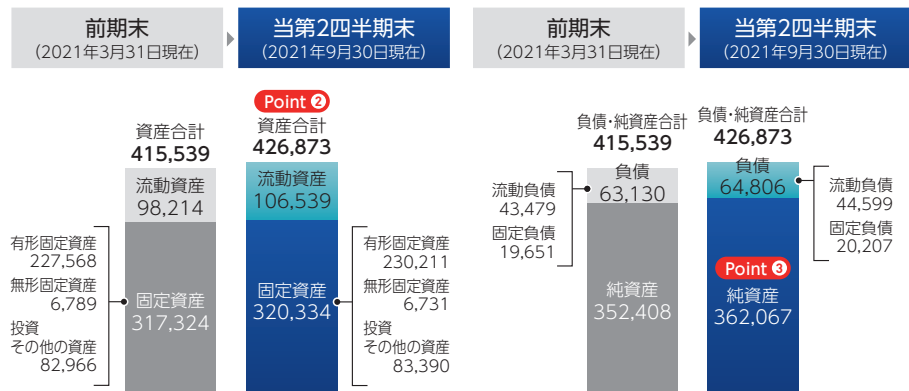
連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

四半期連結損益計算書の要旨 (単位:百万円)



四半期連結貸借対照表の要旨 (単位:百万円)



Point ② 総資産

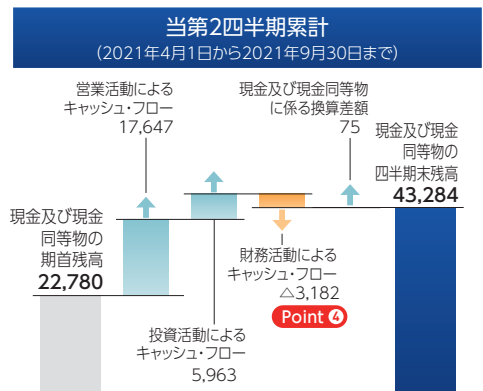
「受取手形、営業未収入金及び契約資産」が減少したものの、「現金及び預金」や「建物及び構築物」が増加したことなどにより、前期末に比べ2.7%増加

※第83期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、第82期に係る各数値については当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっています。

Point ③ 純資産

「利益剰余金」および「その他有価証券評価差額金」が増加したことなどにより、前期末に比べ2.7%増加

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位:百万円)



Point ④ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払による支出31億36百万円などにより、31億82百万円の純支出

特集 上組の物流ソリューション④

CASE Study 4

香港の食品輸入商社A社様

日本から海外へ
ワンストップの食品輸出サービスを展開

お客様の課題

- 日本の農水産物・食品を新鮮なままスピーディーに香港へ輸入したい
- キロ単位やパレット単位での輸送をしたい
- 日本から香港の納品先まで、一貫輸送体制の整った業者に任せたい

上組のソリューション

- 豊富なノウハウを活かし、安全・高品質な輸出を実現
- 航空輸送のほか、海上輸送による冷蔵混載サービスを展開し、少量の輸出にも対応
- 国内・香港双方で、当社グループがお客様をトータルサポート

アジア諸国では、昨今の消費者の購買力向上から、日本の農水産物・食品を新鮮なまま輸入したいというニーズが増えており、最近のコロナ禍においても巣ごもり消費により堅調な需要が続いています。

当社はこのようなニーズに着目し、2015年より専門部署として大阪支店に食品輸出室を設置し、日本国内の青果市場や生産者による香港への青果物輸出をサポートしています。1923年に台湾産バナナの荷捌きを引き受けて以来、青果物輸送のエキスパートとして培ってきたコールドチェーンのノウハウを活かし、グループ会社と連携しながら貨物の集荷から現地配送までをトータルでご提案しています。現地への輸送には、貨物の量や特性に応じた輸送手段をご提案しており、上組航空サービス(株)と連携した航空輸送のほか、海上輸送では当社施設でコンテナ詰めを行う冷蔵混載サービスを提供し、少量の貨物でも鮮度を保ったまま香港まで輸送可能です。香港での輸入手続きや荷捌き、配送手配も現地子会社(上組(香港)有限公司)が行う一貫輸送体制を整えており、業界最速のリードタイムとお客様の輸送コスト削減を実現しています。

また、スピーディーな輸出だけでなく、需要期の大量注文に対応するため、お客様が希望する出荷時期まで国内の当社冷蔵倉庫で保管するサービスも提供しています。

今後は、シンガポールやタイなど東南アジア諸国にもサービス取扱い拠点を拡大するとともに、受託可能温度の拡充を図り、多様化するニーズに応えてまいります。



食品輸出サービス
パンフレットの
ダウンロードは
こちらから



Topics

洋上風力発電所向け基礎構造物の海上輸送を完遂

2021年4月9日、当社は秋田港・能代港洋上風力発電所向けの基礎構造物の海上輸送を無事完遂しました。約半年の準備期間を経て、重量物船社3社・計5隻を起用し、オランダのロッテルダム港から秋田港まで、最大80m・880トンのモノパイル*と、高さ33mのトランジションピース*各33基を輸送しました。当風力発電所は、日本初の民間洋上風力発電事業で、発電容量は約140MW、一般家庭約13万世帯の年間消費量に相当する電力を生み出す施設となります。

当社は、重量貨物輸送のエキスパートとしての豊富な実績とノウハウを活用し、再生可能エネルギーに取り組むお客様をサポートすることで、業容拡大とともに持続可能な社会の実現にも貢献してまいります。

※モノパイル：支持地盤に打ち込む大口径杭(着床式の基礎部品)

※トランジションピース：風車タワーとモノパイルの接続部品



▲ロッテルダム港にて第1船モノパイル積み込み作業中



▲秋田港にて第3船着岸時